お年寄りに細かい心づかいを

◇◇◇ 元気なお年寄りからねたきり・ひとり暮らしの恵まれないお年寄りまで―その対策を進めるにも、市では、それぞれ細かい配慮をしています。みんながしあわせで明るいまちにするには、何んといってもお年寄りを大事にする気持が大切です。◇◇◇

生きがい対策

老人スポーツ大会
来年はぜひ青空の下で

年一回行われる老人スポーツ大会は、お年寄りの楽しみの一つです。

ことしも、六月に市体育館で行われました。

当日お年寄り約千五百人が思い思いに弁当持参で集まり、初夏の一日を子供にかえり、はしゃぎ、汗を流しました。

競技種目も楽しいものばかり、個人競技では魚つり・スプーンレースをはじめ男女で組む二人三脚など、団体競技では、玉入れや玉送りなどです。

賞品も、もらえるとあって出場者も一生懸命。はりきりすぎて、ころぶ人もありましたが、主催者側の心配をよそに、本人たちはケロリとしたもの、ケガ人も一人もでませんでした。

これまでの会場は体育館でしたが、参加者の多くは、ぜひ青空の下で楽しみたいという声が多いことから、市では、その方向で検討しています。

老人福祉課では「お年寄りだけに雨のことやえん天下で長時間すごすことなど考えて…」と細かな配慮をしています。

老人クラブを育成
「会合が楽しみ」

老人を孤独にしてはいけない―それには、老人が集まって生きがいを見い出すことができる老人クラブをふやしてゆこうと、市では老人クラブの育成指導を行っています。

年々、クラブもふえ、現在市内で二百十五クラブもあります。

平均クラブ員数は七十七人で、五十人以上のクラブが一か月一回活動し、会員の三分の二が出席することを条件に、市から年四万三千二百円を活動費として支給しています。

クラブ活動のおもなものでは、公園、神社などの清掃奉仕、講師をまねいて教養講座を開いたり老人の健康についての討論会や血圧測定あるいは、リクリエーションや旅行などです。

集会所としては、神社や個人の住宅がほとんどです。

クラブ員は、みんなで集まる機会を楽しみにしておりますが、特に大きなクラブは、会場確保が一つの悩みとなっています。

それだけに、西大畑町のことぶき荘は、集会場として使われる日が多く、フリーで利用する人と共に連日、元気なお年寄りでにぎわっています。

カゴを目がけて「ソレッ」――老人スポーツ大会

好評な無料入浴
一年間で一万人

市内の公衆浴場組合加盟浴場に年三十六回、無料で入浴できる制度がとられ喜ばれています。

この制度は、三十八年度に行われ、七十歳以上を対象としていましたが、四十九年度から対象わくが拡げられ六十五歳以上となっています。

お年寄りの衛生と健康を考え実施されたものですが、何んといっても午後三時ころから気がねなく入浴でき、浴場で仲間と談話ができるとあって、お年寄りの生きがいの増進につながっています。

それだけに利用者も多く、ことし十二月末までの一年間で約一万人にものぼるものと推測されます。

無料入浴券ご希望の方は、市老人福祉課まで保険証持参のうえおいでください。その場ですぐに差し上げます。

老人居室整備資金貸付事業
来年度は増額検討

お年寄りと家族のなごやかな人間関係をたもち、明るい老後をおくってもらおうと、お年寄り専用の部屋をつくるのに必要な資金を一件五十万円を限度として、貸し付ける制度が昨年から始められています。

希望者は多く、昨年度も今年度も、定員をこえるほどでした。

来年度も新しく貸し付けを行いますが、限度額の引きあげ、あるいは、貸し付け数の増加を検討中です。

来年度の募集は、〃にいがた〃―市報で行います。

ねたきり老人対策

ベッド、車いすなど無料貸与
～12月初旬に見舞品～

ねたきり老人にとっては、ベッドなど日常の生活用具が整い、介護や精神面でのはげましが必要です。

そこで、市では、日常生活用具の無料貸与、家庭奉仕員の派遣、援護品(見舞金)の贈与など行ってきました。

これまで、ねたきり老人と長期の療養老人のために、特別な配慮がされている「ギャッジベッド」を貸与してきましたが、さらに、ことし十月から介護にあたる家族の便を図るために万能担架と折りたたみ式のいすの貸与も始めました。ギャッジベッドは七十一台ありますが、現在全部貸し出されています。車いすは、ねたきり老人を家庭の内外へ自由に移動するのに便利です。保有台数は五十台ですが、まだ余裕があります。担架は、車いすやベッド、いすリハビリテーション用として使用できるものです。保有台数は六十六台あります。これもまだ余裕があります。

これら介護器具を貸りたい方は市援護係へ申し出てください。

長期のねたきり老人に、毎年贈っている見舞品は、ことしも準備も終わり、十二月初旬に約六百人にシーツがとどけられます。

家庭奉仕員も、身のまわりの奉仕作業を行い、日常のよきアドバイザーとして活躍しています。

寝たきり老人の生活必需品を枕元にそえる家庭奉仕員

ひとり暮らし老人対策

家庭奉仕員の派遣

「おじいちゃん、お元気ですか?」一週間に二日、ひとり暮らしや寝たきりのお年寄りを訪問して、洗濯、掃除や縫物をしたり、お年寄りのからだをふいてあげたりする家庭奉仕員。

寝たきりでしかもひとり暮らしのお年寄りの場合など、命の綱といえる存在です。

身のまわりのことは、キチンとできても、ひとり暮らしのお年寄りは、孤独になりがち。家庭奉仕員を相手に、世間話しなどするのが楽しみで、首を長くして訪問を待っているお年寄りも数多くあります。

また、日常のいろいろな問題の相談にのり、よきアドバイサーとなるのも、家庭奉仕員の大切な役目です。

決して、きれいなものばかりといえない仕事ですが、「お年寄りのために、何か役に立ちたい」という気持ちで、家庭奉仕員は嫌な顔一つせず、毎日市内のあちこちで活動しています。

家庭奉仕員の数は、今二十人ほど。派遣を希望される方は、民生委員や老人訪問相談員を通して、あるいは直接、老人福祉課までご相談ください。

老人福祉電話の貸与

「もしもし○○さん、電話センターです。なじらね、具合いは?」

「お陰さんで……」

「いいアンバイらね。」

こういった調子で始まる老人電話。ことぶき荘にあるセンターからは、毎日ひとり暮らし老人などの安否を確かめる電話相談員の声が聞かれます。

老人福祉電話は、ひとり暮らし老人などを対象に、無料で貸し出す制度で、基本料金と、一日一通話分を、市が負担しています。現在二百四十八本。

「電話があると、そばに人がいて、家族が増えたみたいだ」「身内といつでも話しができるし、一人で医者も呼べる」とたいへん好評です。

一週間に一度は、センターからかかる電話も、電話相談員の親しみやすい会話が評判で、楽しみにしているお年寄りも多いとのこと。中には、孫の嫁探がしまで、頼むお年寄りもいます。

市では、さらに貸し出し本数を増やしていきたい考えです。

老人訪問相談員

電話相談センターからの「声の訪問」を行う一方、ひとりぐらし老人の家へ直接訪ずれて助言指導する老人訪問相談員制度もとりいれています。

訪問相談員は、民生委員の中から七十人の方が当っており、そのうち十人が男性です。

相談員は、地域別に配置されており、電話センターと連絡を密にしながら活動を続けています。

相談員は、日ごろ、担当地区のひとり暮しの老人を定期的に訪ずれ日常生活の相談に応じたり、時には話し相手になったりして老人の安否をきずかっています。

電話相談センターからの連絡で、緊急に訪問する必要があることもあります。

この制度は、四十七年の秋から発足しましたが、発足一年間で相談指導件数は九千九百四十八件。中でも、生活関係四千四百十七件を最高に医療関係二千三百四十七件、家族関係一千百三十件と続いています。

これを見てもわかるように老人の悩みは非常に多く、相談員の活躍が期待されます。

シルバー・スポーツ・クラブ
元気ハツラツ
「若さ」をきそう

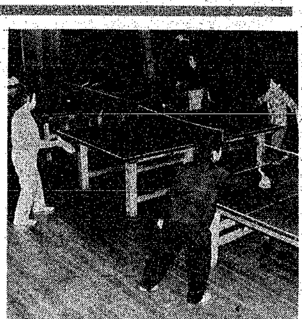
シルバー・スポーツ・クラブをご存知ですか?

高年齢者ばかりのクラブです。月に五回ほど、市体育館に集まって、体操、卓球や歌・踊りを楽しみます。中でも人気の的はピンポン。初めは、ピン、ポン、ピン、ポンとはいかず、せいぜいピンくらいしか続かなかったのが、今は、コースを選んでスマッシュを打つほどに成長。

最初のうちは、スポーツそのものより、友達を求めて、集まってきたのが、今は夢中になって練習しているという風情。中には、内野などから汽車に乗ってくる人もいるハリキリよう。昨冬、ドカッと雪が降った時など、クラブから指導を頼まれている体育課の職員が「きょうはやりますか?」と会員に電話したら「こんな雪にたまげていて新潟に住めますか!」と逆にハッパをかけられたほど元気ハツラツなお年寄りばかりです。

このクラブができたのは昨年の十一月。市の主催で行ったことぶき軽労教室の卒業生が、自主的に集まってつくったものです。シルバーという名は、人間稼業の長さを誇る人ばかりだがまだまだ上がある。もっと成長して金になろう―という意味を髪の白さにひっかけたとか。

クラブの活動ぶりは、なかなかにぎやかなもので、声だけ聞いていると十代の娘さん達が集まって騒いでいるのかと思うほどです。孫の自慢より、卓球の上達ぶりや、ぜいにくの落ちたスマートなおなか?を誇り合う底抜けに明るく「若い」クラブです。現在、会員は三十人ほどで、新加入者を歓迎するそうです。お近くにクラブ員のいない方は、市体育課(☎66―八一一一番)を通せば、連絡がつきます。



年を忘れて卓球に熱中するクラブ員たち